

令和2年度 6月号

令和2年6月1日発行

横浜市立東汲沢小学校

“輝け！ひぐみっ子” だより

～東汲沢小学校教育目標「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」～

☎861-5531 <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/>

学びの「再開」と「再会」による学び

校長 丹羽正昇

久しぶりに子どもたちが学校に帰ってきました！

職員一同、子どもの姿を見て、声を聞いて、子どもと接して、子どもと話して、ほっとしております。やはり、子どものいる学校はいいなあ。学校は子どものためにあるのだなあ、改めて実感します。この日を迎えることができたのも、ひとえに、子どもたちの健康と安全を守ることへの、保護者の皆様の多大なるご理解とご協力による賜物です。心より感謝申し上げます。そして、地域の皆様には、まちで生活する子どもたちを見守り、学校の再開を支えていただきました。心より感謝申し上げます。

さて、学校生活が再開されたといっても、6月中は、地域ごとに午前と午後に分かれて登校する分散登校が二週間。その後、全学年全学級による午前授業が二週間。通常の学校生活とは程遠い感じの始まり方です。この二か月間（2年生から6年生は、約三か月間）、我慢に我慢を重ねてきた子どもたち。それぞれに、相当なストレスを抱えていると思われます。今月は、そのような子どもたちの状況を踏まえ、ゆったりとした気持ちで学校生活を送ることができるようになります。最初の二週間で、家庭学習や昨年度末に学習するはずだった内容をフォローし、次の二週間で、必要に応じてフォローを続けながら、新しい学習の内容も扱っていきたいと考えています。

学校生活が再開しても、新型コロナウイルス感染症拡大防止の取組が続き、以前のように友達や仲間と対話したり議論したり、校外学習に出かけたり、思い切り運動したりすることは、ひょっとしたらできないかもしれません。しかし、ひぐみの職員とひぐみっ子は、お互いに知恵を発揮し、日々この困難を乗り越えていくと思います。これは、願望や希望ではありません。私が着任してからの二か月間、職員の様子や課題を受け取るために学校にきていた子どもの様子を見て、心からそう思えたのです。

職員は、次から次へと押し寄せる難問に対して、子どものことをいちばんに考えながら、誠実にクリエイティブに職務を遂行してきました。一例をあげれば、学校のウェブページにある「ひぐみ日記」や音声メッセージなどです。家庭で過ごしている子どもたちに、何かできないか、何か伝えられないか、臨時休業が明けても続けていけることはないかと、職員同士で対話を重ねて考えたものです。

一方、学校にやってきた子どもたちは、仲間を見つけると、密になるのを避けるように気を付けながらも、再会した喜びを隠し切れずに、元気？またねと、遠慮がちに声をかけあっていました。子ども同士、自分と仲間を守ろうとする姿だと私は思いました。職員や子どもたちのエピソードは、たとえこの先、困難な状況が待っているとしても、相手を思う一生懸命さが、必ず道を開かせることを伝えていていると思います。

本当に大切なことは、授業のスタイルではなく、心を寄せ合う人と人が、同じ空間や時間、目的を共有することです。一人ひとりが学びたいことをもち、その思いに対して仲間が寄り添ったり尊重しあったりして学びを深めていく。学校を再開し、子ども同士、子どもと職員が再会できたからこそできる学びです。

どうぞこれからも、保護者の皆様、地域の皆様、温かいエールをひぐみっ子やひぐみの職員に頂戴できますようお願いいたします。

ひぐみっ子のみなさん、お帰りなさい。

これからも、ひぐみの先生たちは、みなさんを全力でサポートします！